



肥大化した官僚機構そのものの維持費(警察、自衛隊など)。自民党と官僚と経団連が行つてきたその失策のツケ(五百兆円の借金)。そしてなによりも、税金に寄生する膨大な政・官・財の癒着(土建屋国家・利権国家)

肥大化した官僚機構の維持費(警察、自衛隊、中央官庁)

日本社会は肥大化した官僚機構の重圧にのたうち回っている。行政改革が何回も繰り返される。叫ばれようとも、自分で自分の首を絞めようなどとする奇特な官僚は一人も出できはしなかつた。出てきたのは中曾根臨調にみられる、国鉄の民営化とともに労働者の首切りと、赤字路線の切り捨てによる地方都市住民への犠牲の押しつけ、民間活力の活用という名の下での社会資本の収奪とバブル景気の横行くらいであった。他方、肥大化した官僚機構の中でもその最大のものである自衛隊や警察機構はますます拡大し続ける一方であつた。官僚機構、わけてもその最大のものである自衛隊警察機関というブルジョア階級支配を暴力的に支えるための装置であり、人民にとっては百害ある

開くものとなろう。大蔵官僚が開くものとなる。大蔵官僚が

の巨額を浪費し、多数の若者を日々無為な活動に浪費している。

日本社会は、三千六百十九億円の警察予算と、三兆二千九百六十二億円の都道府県警察予算(予算総額の六・一%)の合計三兆六千億円の経費を税金から取り立て、二十六万人近くの中央集権化された官僚機構を維持している。

この支配階級の暴力装置は、いま、人民同時に他のあらゆる組織に対して、警察に楯突くものなら何でも、他のブルジョア機関に対してさえ)を威嚇し弾圧する能力を高め、自らの利用価値を高くし、それこそ行革対象にならないためにも、「組織的犯罪対策法」を時期通常国会上に上程せんとしている。このような法案ができるれば、それこそ「警察の組織的犯罪」を取り締

ますます露わになる、ブルジョア階級の支配の道具としての国家

化で国家財政が破綻を来している。いま、自民党政府は国家財政の破綻が何に起因しているのかを隠蔽し、小字・高齢化の進展という真実を隠蔽したまつたく外的な理由を挙げている。そして消費税のアップによる大

条件の悪化、危機を乗り切ろうとしている。しかし、これはただの犠牲を強いられるプロレタリアート・人民の生活はますます余裕を失っていくことになる。

## 二 支配体制の重みに耐えきれない日本社会

# 支配する日本の社会本筋

ますます露わになる、ブルジョア階級の支配の道具としての国家

の合計六兆二千三百三十八億円の巨額を浪費し、多数の若者を日々無為な活動に浪費している。

冷戦の終結以後、この巨大な軍隊は他の諸国の軍隊が軍備縮小の波に晒されているにもかかわらず、膨張し続けている。そこにおける自衛隊の新たな任務として急浮上してきたのが、他ならぬ海外派兵である。これは、世界大に拡大した日帝の海外権

益を守るために間違いないが、ここにきて急激にピッチを上げだしたのは、在日米軍同様、市民にとって全くその存在意味を見出しがたい。今後も巨大な経費を使う組織の存続に要する保護法の撤廃と生活諸条件の悪化、危機を乗り切ろうとしている。しかし、これはただの犠牲を強いられるプロレタリアート・人民の生活はますます余裕を失っていくことになる。

このふたつの巨大官僚機構が十六億円と、他国では防衛関係費の中に組み込んでいる旧軍人遺族等慰労費一兆五千二百二億円

の合計六兆二千三百三十八億円の巨額を浪費し、多数の若者を日々無為な活動に浪費している。

公共事業関係の長期計画(現在施工中のもの)

長期計画名	年度	総事業費(億円)	直前の計画	伸び率	根拠法など	制定手続き	関係省庁
第11次道路整備5ヶ年計画	93-97	760,000	530,000	49.4	道路整備緊急措置法	道路審議会→閣議決定	建設省
第3次急傾斜地崩壊対策事業5ヶ年計画	93-97	11,500	8,000	43.8	なし	閣議決定	建設省
第3次治水事業5ヶ年計画	92-96	175,000	125,000	40.0	治水治山緊急措置法	河川審議会→閣議決定	建設省
第5次都市公園整備5ヶ年計画	96-2000	72,000	50,000	44.0	都市公園等整備緊急措置法	閣議決定	建設省
第8次下水道整備5ヶ年計画	96-2000	237,000	165,000	43.6	下水道整備緊急措置法	閣議決定	建設省
第6次交通安全施設等整備事業5ヶ年計画	96-2000	26,900	20,150	33.5	交通安全施設等整備事業に関する緊急措置法	閣議決定	建設省
第7次住宅建設5ヶ年計画	96-2000	730万戸	730万戸	-	住宅建設法	閣議決定	建設省
第9次海岸事業5ヶ年計画	96-2000	17,700	13,000	36.2	なし(国会付帯決議)	閣議決定	建設省、運輸省、農水省
第9次港湾整備5ヶ年計画	96-2000	74,900	57,000	31.4	港湾整備緊急措置法	港湾審議会→閣議決定	運輸省
第4次土地改良長期計画	93-2002	41,000	328,000	25.0	土地改良法	農政審議会→閣議決定	農水省
第1次森林整備事業計画	92-96	39,000	-	-	森林法	中央森林審議会→閣議決定	農水省
第8次治山事業5ヶ年計画	92-96	27,000	19,700	40.1	治山治水緊急措置法	河川審議会→閣議決定	農水省
第9次漁港整備6ヶ年計画	94-99	30,000	24,100	24.5	漁港法	漁港審議会→閣議決定→国会承認	農水省
第4次沿岸漁場整備6ヶ年計画	94-99	6,000	4,800	25.0	沿岸漁業整備開発法	沿岸漁業振興審議会→閣議決定	農水省
第8次廃棄物処理施設5ヶ年計画	96-2000	50,500	28,300	78.4	廃棄物処理施設緊急措置法	閣議決定	厚生省
第7次空港整備5ヶ年計画	96-2000	36,000	31,900	12.9	なし	航空審議会→閣議決定	運輸省

官僚たちは、他の諸国に較べて日本の公務員の対人口比が少ないという見かけ上の子供だましの統計を出し、人民を騙そぞうとしている。われわれが、行政改革が必要だというのは、何も条件の悪化、危機を乗り切ろうとしている。しかし、これはただの犠牲を強いられるプロレタリアート・人民の生活はますます余裕を失っていくことになる。

このふたつの巨大官僚機構が十六億円と、他国では防衛関係費の中に組み込んでいる旧軍人遺族等慰労費一兆五千二百二億円

1面から

# 新「ガイドライン」に向けたモデルケースづくり

そして、われわれが決定的に重視しなければならないのは、今回のカンボジア(タイ)派兵が、六月中間報告を受けた今秋「ガイドライン」改定に向けた今

で進められている。九月の「ガイドライン」改定を受け、来年通常国会では一気に焦点化する

であろう。

これら「ガイドライン」改定に歩調をあわせた「有事法制」策動と一体のものとして、武器使用

し、二十二項目の検討課題としてまとめられている。その中でも注目すべきは、物資の積み降ろし作業などにおける民間業者の

支援について、罰則や強制措置を含む立法の必要を挙げ、共和国解体・包摶攻撃への参戦―朝鮮出兵への民間動員を強調して

いること、さらに、米軍の後方支援として「有事版ACS」の必要性を挙げていることである。

七月八日には、自民党安全保障調査会が「ガイドライン」見直しと新たな法整備に向けて

いる。

# 自衛隊カンボジア(タイ)派兵弾劾

領、ゴラン高原に作戦展開中の自衛隊を閲兵し、PKO等協力法改悪案を今秋臨時国会にも提出することを宣言した。久間はこのとき、「ゴラン高原での武器使用は考えられないが、制度上の問題は残っている」と発言

し、逆に今後の他の海外派兵で武力行使を想定していること

を自己暴露した。ゴラン高原派兵自体も、カンボジア(タイ)派兵延長が決定されている。当初から懸念されていたように、

海外派兵の常態化・永続化が進んでいるのである。ゴラン高原派兵延長を許さず、PKO等協

に浮上してきた自衛隊法改悪を進めていた。九月の「ガイドライン」改定を受け、来年通常国会では一気に焦点化する

であろう。

ア(タイ)派兵は「ガイドライン」改定と一体の派兵態勢強化の攻撃であり、その性格を過小評価することは決してできない。強行されたカンボジア(タイ)派兵を徹底弾劾し抜き、これを契機に浮上してきた自衛隊法改悪を粉碎しよう。

空自輸送機のカンボジア(タイ)派兵弾劾し、フン・センの

クーデター体制を容認、支持す

る米日帝国主義を許すな!

朝鮮出兵に向けた自衛隊法改悪阻止! PKO等協力法改悪阻止!

共和国解体・包摶攻撃への参

戦に向けた「ガイドライン」改定を許さず、「有事法制」整備―戰

時態勢構築を粉碎していこう。

BMのチエス用プログラム「ディープブルー」がチエスの世界チャンピオンを下して

いる。それが例えゲームであつてもCPが人間と対等に闘うのみか、人(それも各子ヤンピオン)の判断を上回る働きをしたわけである。▼とはいえ、その割に世間は騒がない。このことでCPへの礼賛は特に聞こえてはこない。ほんの何年前には、あたかも

BMのチエス用プログラム「ディープブルー」がチエスの世界チャンピオンを下して

いる。それが例えゲームであつてもCPが人間と対等に闘うのみか、人(それも各子ヤンピオン)の判断を上回る働きをしたわけである。▼とはいえ、その割に世間は騒がない。このことでCPへの礼賛は特に聞こえてはこない。ほんの何年前には、あたかも

CPによる「人口知能」が可能であるかの宣伝が大げさに展開されていたにもかかわらず。それらに踊った輩は、今までのものが、情報処理の手段へおどしめられた。先の「ロジスティック」の開発者も「今後もデータを多数記憶している。これを参考に着手する。しかし、CPが検索に終わるのに対し、人は創造する。この決定的差が将棋・碁ではCPがまだ人(ただし段位クラス)によるかに及ばない理由である。▼オセロ・チエスのマス目は八×八である。将棋は九×九、碁は十九×十九。すでに六十四マスのゲームはCPに制覇された。ノイマン型でもいつの日かより多いマス目のゲームを制している。ただし、それは、マス目によってはCPの優位はCP独自のトレーニングに使われる。オセロまたチエスで果たされたことは士官間違っている。

これがC.P.が対決した結果はC.P.が勝った。C.P.はNECのオセロ・プログラム「ロジスティック」である。五月にはI

が庄勝。六戦して全勝したのだから文句なしの勝利だつた。勝つたC.P.は、NECのオセロ・プログラム「ロジスティック」である。五月にはI

が庄勝。六戦して全勝したのだから文句なしの勝利だつた。勝つたC.P.は、NECのオセロ・プログラム「ロジスティック」である。五月にはI</

戸で中学生が逮捕されてもな  
く、中学一年生が首を吊つた。  
彼の遺書には「自分も一皮むけ  
ば恐ろしい人間だとわかりまし  
た。自分が何もしない内に死ね  
ればそれでよかつたのです」と  
書かれていたという。  
このような事態は、支配階級  
に衝撃を与えた。

「経済システム」(とりわけ労働力再生システムとしての教育)の機能不全が事件の背景に存在したこと、中学生の「異常」性を強調し、該校の建て直しを求め、他方は、当該の建て直しを求める。一方で、心の監視はいじめ問題が浮上化させたのだ。

そうした中で国家権力は、少年に対し、保護的扱いから治療的扱いへと態度をシフトする。すると共に、「心の教育」を掲げ、子供たちの心をも監視し統制する方向に動き始めている。

言によつて明らかにしたからである。まず学校を問わねばならぬといふ。そもそも学校は、家族から教育機能を取り上げ、子供たちを資本とその国家のために働く人間へと仕立て上げる機関として創出された。初等・中等教育は、その国家的強制（義務教育）と受験競争によつて成り立つておる、工場労働に適応させるための知識の注入と命令服従態度の訓練、及び、管理職・専門職候補の選別を目的としてきた。高等教育の目的は、管理職・専門職の育成である。

資本主義の下での機械制大工業の発展は、生産組織における官僚機構と研究開発部門の膨大化をもたらし、学校教育課程に

競争の中で徹底的に孤絶化され、ランク付けされ、ひたすら管理の対象へと位置づけられしていく子供たちの心情は悲惨である。

他方家族は、国家に教育機能を奪われただけでなく、資本により女性労働力もが動員されることによって、学校と実験産業に子供をますます委ねざるを強くなつており、「義務教育」の下請け・補完の役割を余儀なくされている。「義務教育」の強制的性格は、子育てを中心とした立地で、現在の家族生活の隅々にまで浸透している。子供たちは、この体制の下で、自己を表現することを否定され、「命の大切さ」をも強制されるのである。

僕二いてないわけにはない、対策をとつていいわけもない。彼らは、義務教育の抑制的性格を行政的さじ加減でとどめる登校拒否者の存在を一定認め、個性尊重教育を提唱し、画一的基準による選別教育の姿勢を計り、中高一貫教育に妥協競争の緩和を期待し、学校教育への地域住民や社会人講師を導入して労働実践からの隔離の姿勢を少しばかり開けて見せ、生徒教育を語ることで学習期と労働期と「老後」への人生の分割にに対する批判を表面的には取り込んで見せてている。しかしそれらは子供を隔離し、資本とその国富のために働く人間へと仕立て上げる「義務教育」の根幹に手を触れるものでは全くない。むしろ

して生きてきた子供たちのストレス解消のための自己表現の仕方を次々に抑制されたことの中で、一層非公然・層目的意識的なその仕方を見出してきた過程の帰結に他ならない。これまでとの違いは自己表現の行為が弱い人間の意識的殺害であること、そして、その行為を自己の内部正当化する論理を創り上げねばならず、「神」によって全てが当付けられる宗教的世界への存在を深めていることである。「十字」をあしらった紋章を使っていたことも、同じ脈絡の内である。

いるというは過ぎない。流れを変ねなければならない。

流れを変えるのは子供たち自身である。子供たち自身のたかいが、ブルジョア教育制度とどめを刺すだろう。とはいえブルジョア教育制度の廃止は、全社会的共同事業の一環としてのみ実現できる性のものである。

第一に、労働時間の大幅な縮によって、地域の親たちが供の学習を援助できるようにな

境<sup>き</sup>障壁<sup>じやく</sup>を組み込むことは出<sup>で</sup>ない。  
このような変革課題は、大<sup>おほ</sup>きなものであり、本質的<sup>ほんしつてき</sup>に  
たちの自己解放課題でもある。  
そしてそれらは、ブルジョア<sup>ブルジョア</sup>  
変形<sup>へんけい</sup>を被つた形態<sup>けいたい</sup>ではある  
が、社会的<sup>かわいてき</sup>に浮上<sup>うつじょう</sup>してきていた  
背後<sup>せご</sup>には物質的<sup>ぶっしつてき</sup>条件<sup>じょうけん</sup>の成熟<sup>じゆしゆく</sup>が  
ある。問題は、資本とその國家<sup>こっか</sup>が  
支配<sup>し</sup>であり、それらが根本的<sup>ほんぽくてき</sup>  
変革<sup>へんかく</sup>を阻んでいる。革命を進<sup>すす</sup>め  
しなければならない。

10. The following is a list of the names of the members of the  
Committee on the Organization of the National Conference of  
Negro Women.

酒鬼善徽聖斗

# 事件に思う

的に否定され続けるのである。今日の子供たちにとって、それは耐え難いことである。

七〇年代半ば頃より、校内暴力、家庭内暴力、暴走行為の形で、子供たちはそのストレスを爆発させてきた。それから学校内管理体制の強化や警察によるつま先攻撃によって抑壓されていくと、生きるだけ罰せられない仕方つまり政治的に弱い対象の人々を攻撃対象に選んで・ストレ

かし事態は、革命的変革に向つているわけではない。子供たちが自分より弱い人間に矛盾しあわせる流れは変わらず、それが過度になつて生秩序が維持できなくなつてしまふ

いるというに過ぎない。流れを変えなければならない。

流れを変えるのは子供たち自身である。子供たち自身のかいが、ブルジョア教育制度とどめを刺すだろう。

とはいえばブルジョア教育制度の廃止は、全社会的共同事業の一環としてのみ実現できる性のものである。

第一に、労働時間の大幅な縮によって、地域の親たちが供の学習を援助できるようにならねばならない。

を発散するようになつていゝ。それが、八〇年代からの野原労働者に対する襲撃であり、ナイン年代に問題化してきた子供たちへのいじめである。野原労働者襲撃は、放置されてきたいじめは、全社会的キヤンパンによる政治的に抑制される子供たちへの善意の監視が始まってきた。そうした中九〇年代半ばに至り、酒鬼丸聖斗事件が起つたのである。

は、そのうえ、東洋を、それを絶え、必ず見守る。それで、今、方の男